

東京都八王子市

【目指す中心市街地の都市像】

中心市街地活性化基本計画概要

【2期計画：令和5年4月～令和10年3月】

多様な価値観や幅広い世代がつながり“にぎわい”が生まれるまち

【八王子の概要】 人口：561,758人(R3.12.31 住民基本台帳)、面積：186.38km²

- ・本市の中心市街地は、安土桃山時代から江戸時代初めにかけて徳川家の重臣 大久保長安により甲州街道沿道が宿場町として整備されたことに起因。
- ・現在のJR中央線、京王線開通以降、甲州街道と駅との間及び駅周辺にも賑わいが広がり、現在の中心市街地が形成された。

【中心市街地の課題等】

1) 回遊性・滞留性の強化につながる場や機会の創出

東京たま未来メッセ等の整備により中心市街地への来街者増加が見込めるなか、官民の連携を通じて各施設等への来街者をまちなかに誘導するため、回遊性・滞留性を高めることが必要

※歩行者通行量 H28 124,297人/日 → R3 109,136人/日

2) 新規出店促進による経済活力の向上

経済活力の低下につながる空き店舗については、新規出店促進や空き店舗オーナーへの働きかけにより、活用促進などに取り組むことが必要

※新規出店数 H24～28合計 30店舗 → H30～R3合計 33店舗

3) 多世代の人口密集に伴う社会課題の表出

中心市街地の人口は増加しているが、1世帯あたり人口は1.75人と低く、また地域内のつながりが希薄化する傾向があるため、多世代が出会い、交流する場を創出していくことが必要

※地域交流活動施設来場者数 H28 0人/年 → R3 34,601人/年

【計画目標と数値】

目標	目標指標	基準値	推計値	目標値
文化・歴史をはじめとする様々なまちの魅力を感じ、回遊できるまちなみ空間の創出	歩行者通行量 (平休日平均)	117,769 人/日 (H30～R3の平均)	126,268 人/日 (R9)	130,500 人/日 (R9)
	(参考指標) てくぼ※ 利用者数	300人/年 (R4)	2,100人/年 (R9)	2,170人/年 (R9)
市民や来街者を惹きつける、個性あふれる商業空間の創出	空き店舗数	86店舗 (R3)	82店舗 (R9)	65店舗 (R9)
地域での交流を通じて共に安心して過ごせる交流空間の形成	地域交流活動施設来場者数	34,601 人/年 (R3)	54,660 人/年 (R9)	66,000 人/年 (R9)

※てくぼ：高齢者の健康増進を目的とした歩数計測等が可能なアプリ

【中心市街地活性化の方針】

【賑わい創出】八王子らしさを感じ、巡りたくなるまち

伝統文化伝承・未来創造プロジェクト等を通じて「多様な魅力＝八王子らしさ」を地域ブランドとして発信し、本市への理解を深めるとともに、中心市街地を回遊できる仕組みを構築していく。

→目標：文化・歴史をはじめとする様々なまちの魅力を感じ、回遊できるまちなみ空間の創出

【目標指標1 歩行者通行量(人/日)】

全69事業

【経済活力の向上】新たな価値を生み出す魅力的なお店や人に出会えるまち

様々な個性ある店舗や業務施設等の導入及び集積を促進することを呼び水として、中心市街地の経済活力の向上につなげる。

→目標：市民や来街者を惹きつける、個性あふれる商業空間の創出

【目標指標2 空き店舗数(店舗)】

全40事業

【街なか居住の推進】つながりのある暮らしの中で充実感を実感できるまち

近隣住民、NPO、事業者や行政等が連携し、気軽に出会い、交流するために外出する機会を増やすことで、他者とのつながりのなかで安心して心豊かに暮らせる、居心地のよいまちを目指す。

→目標：地域での交流を通じて共に安心して過ごせる交流空間の形成

【目標指標3 地域交流活動施設来場者数(人/年)】

全29事業

【前期計画目標と数値】

目標	目標指標	基準値	目標値
歩きやすく憩いやすいまち	歩行者通行量 (平休日平均)	124,297人/日 (H28)	128,764人/日 (R4)
新たな老舗を生み出すまち	新規出店数	30店舗 (H24～H28合計)	57店舗 (H30～R4合計)
買い物をするのが 楽しくなるまち	小売業年間商品 販売額 (独自調査)	7,742,391万円 (H28)	8,050,462万円 (R4)

